

「内侍方居屋敷(ないしかたいやしき)」

巖島野坂文書 1917号 巖島社社家内侍祝者屋敷付立 (年号不詳)

【註】付立 (つけたて)・・・帳面にしるしをつけること

(内侍方居屋敷覚)	(所在町名)
竹林内侍居屋敷	久保
御子内侍居屋敷	久保
徳寿内侍居屋敷	瀧小路
四老内侍居屋敷	柳小路
五老内侍居屋敷	南小路
六老内侍居屋敷	南小路
七老内侍居屋敷	南小路
八老内侍居屋敷	南小路
わこん内侍居屋敷	南小路
から神内侍居屋敷	中西
せん松内侍	瀧小路
てん内侍居屋敷	南小路二有
みや松内侍居屋敷	大西二有
お宮松内侍居屋敷	瀧小路有
才鶴内侍居屋敷	南二有
きい内侍居屋敷	大西二有
植木内侍居屋敷	中西有
宮榎内侍居屋敷	南小路有
高井内侍居屋敷	中江有
ねゝい内侍居屋敷	瀧小路有
石田内侍居屋敷	中江
あねい内侍居屋敷	理有
てん内侍居屋敷	南小路有
さい松内侍居屋敷	中西
いゝた内侍居屋敷	
かなちよ内侍居屋敷	南小路
河野内侍居屋敷	久保

島内の町の区分

文政八年(1825)成立の「藝藩通志 卷十五」一安藝國巖島三 市街公廨(くがい)に島内の町の区分説明あり。

●東町(本社より東の総称なり、其内左のごとくわかる、

大町 搭の岡ともいふなり

岡町 山に依る片かは町なり、舊圖(旧図)に宮崎といへるあり、今當町の上、

光明院別荘までの邊（あたり）をいひしと見えたり、
幸町 町内に牛王社あるを以、牛王町（ごおうちょう）といひしを、文化年中より今の称に改む、
脇町 幸町の内なり、濱に埠頭あり依って築出（つきいだす）ともよぶ、
中間町 薬師の小路ともよぶ、山手へ行く路なり、
中之町 濱はすなはち有浦なり、
魚店町 山手へ行く小路なり、
北之町 濱はまた有浦なり、
後町 魚の店より西蓮町へ通ふ小路なり、北町のうしろをなるを以て名づく、
西蓮町 北町の半ばより、山手へ行く小路なり、
同奥町 上の山手は、大御堂原、北の方は、遊里の門外、前圃とよぶ、山上にあせ山あり、脇前圃の奥に上川地藏あり、
新町 寛永年中より、遊女を置くことを乞ひ、此の町を初（そ）じむ、
存光寺町 町内に存光寺ありて、今伊勢宮、山上にあり、
濱之町 濱側、中小浦などいへる、皆此の町に属す、
小浦 魚人舟子の居所、葦屋にて町家と別なり、

- 西町（本社より西の惣称、且つ南町もこれに属す、その内下のごとく分かる、
南町 奥に紅葉谷あり、
瀧町 瀧の下流通ずる所、故に名となす、祠官及び社僧の居多し、
中江町 陰徳太平記に柳小路とあり、
久保町 瀧町に属す、
中西町 御子内侍小路、五軒屋町、みな此の町の内なり、
大西町 大元に通ふ山路あり、
神馬屋町 大西町に属す、神厩（おうまや）の所在あり、
奉行屋處 塔の岡にあり、古政所屋敷といふ、是なり、
元占役所 奉行屋敷の下にあり、
濱之役所 濱の町中小浦にあり、属吏（ぞくり）交番（交替で番に当たる）す、
町會所 前に同じ、町役人出會所なり、
粉場 濱役所後ろにあり、
往還屋 小浦にあり、貧賤（ひんせん）の旅人一宿の設（備える）とす、

戸口

家 千二十八戸

人 三千七百三十四口

西町 二百三十八戸、 千三百十人、 社人二百一人、僧五十人、
自餘(じよ・それ以外)町人なり(千五十九人)

町 七百九十戸、 二千四百二十四人、 僧十五人

地図①－久保小路

地図②－五間屋小路

地図③－中西小路

地図④－御子内侍小路うら

地図⑤－瀧小路

地図⑥－中江小路（柳小路）

地図⑦－南町

地図⑧－大町

(図上クリック拡大図)



(参考文献)：「巖島神社門前町 廿日市市巖島伝統的建造物群保存対策調査報告書
廿日市市教育委員会 平成 19 年

舟船

舟 七十九艘、社疫船二艘、役船一艘、入山船
七艘、商船五十艘、漁船十九艘